

利用者調査とサービス項目  
を中心とした評価手法

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 土田 和博

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号	
	①	植村 義秀	H1801080	
	②	川畑 俊一	H2301081	
	③	笹野 武則	H2301005	
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	共同生活援助(グループホーム)			
評価対象事業所名称	共同生活援助すてっぷ小中尾	ユニット総数	4	指定番号 1322800077
現地調査をしたユニット数及びユニット名	現地調査ユニット数	4	ユニット名	すてっぷ、あすなる、やまなみ、そらふね
現地調査をしたユニットの選定理由(複数選択可)	<input type="checkbox"/> ユニットの特徵 <input type="checkbox"/> 前回の評価で訪問していないユニット <input type="checkbox"/> 利用者調査結果 <input checked="" type="checkbox"/> その他( ユニットすべてを調査しました )			
事業所連絡先	〒	198-0043		
	所在地	東京都青梅市西分町1-115-1		
	Tel	0428-78-4805		
事業所代表者氏名	施設長 宮崎 啓太			
契約日	2025 年 6 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 25 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 12 月 3 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 12 日			
自己評価結果報告日	2025 年 12 月 3 日			
訪問調査日	2025 年 12 月 8 日			
評価合議日	2026 年 2 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、評価者が各ユニットの利用者に直接面談して調査する聞き取り方式と、調査当日に不在の利用者には、事業者が調査票を配布して、評価機関に直接回答を郵送するアンケート方式を併用しました。訪問調査は、事業所の事務所において経営層からの聞き取りと、関係する書類、資料の点検を行い実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 利用者の一人ひとりをかけがえのない存在として大切にします。</li> <li>2) 利用者の人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。</li> <li>3) 障害のある人たちに対するいかなる差別・虐待・人権侵害を許さず、人としての権利を擁護します。</li> <li>4) 障害のある人たちが社会活動に参画し、市民社会の一員として生活できるよう支援します。</li> <li>5) 利用者が希望する自立の実現に向けた支援をします。</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 業務の課題や気付きに対して迅速に対応し、業務マネジメント、タイムマネジメントを実践する人材。</li> <li>2) 日々の職務を通して、地域住民や地域社会に対して、障害者の権利擁護、共生社会に向けた取り組みを発信できる人材</li> <li>3) 自己研鑽し、自身の内省を深めることのできる人材。学びから新たな意欲を生み出せる人材。</li> </ol> <p>(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 利用者の願いや思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち、伴走型支援を実践することを期待する。</li> <li>2) 社会や周辺地域課題を自らの課題としてとらえ、解決に向け前向きに取り組むことを期待する。</li> </ol>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	利用者の状況に応じて、生活上の支援を行っている
タイトル①	利用者の意向や成長に合わせた伴走型支援を実践しています	
内容①	個性性の高い利用者支援がアセスメントシート、個別支援計画に基づいて行われています。食事指導や運動支援を行ったり、希望する利用者には調理をする機会を提供しています。金銭の管理や使い方については、自立度に応じて利用者と話し合い決定しています。そして今年度入居して17年目の利用者がAP型グループホームへの移転と一般就労をすることができました。また、4月からサテライト型住居を1床開所し、一人暮らしに向けた支援が開始されています。日ごろから利用者との生活の振り返りなどで、要望を聞き目標設定とチャレンジを行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	利用者が健康を維持できるよう支援を行っている
タイトル②	利用者の健康管理に対して丁寧に対応を行っています	
内容②	緊急時の通院に限らず定期通院時も原則通院同行を行い、健康状態の把握に努めています。利用者が強く拒む場合は同行せず、事前に病院のソーシャルワーカー等に状況を説明する等、適切な治療につながるよう努めています。利用者の年齢的なことを踏まえると定期的な歯科検診を行っていることも大事であり、大切な支援であるといえます。一方で重度高齢化や、入居者に精神障害がある方を対象に加えたこともあり、通院の機会が非常に多くなってきており、通院同行は大切な支援である一方、日々の業務配分の工夫が必要となっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている
タイトル③	地域の情報を得られたり資源を利用して社会参加ができるように支援を行っています	
内容③	青梅市西分町に地域支援拠点として「地域交流プラザゆうあい」が設けられています。ここは法人の創作活動を紹介する場、地域公益活動を行う場として位置づけられています。また、青梅市社会福祉協議会重層支援体制整備事業、地域包括支援センター、民生委員などと協働で高齢者サロンやフレイル予防、その他法人の強みを活かした活動がこれから期待されています。一方、利用者は地域行事等を知っており、「余暇支援」として参加できるよう支援しています。地域交流プラザができたことにより、街中でのイベントがより参加しやすくなっています。	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	個別性の高い支援をそれぞれのユニットで実践しています
	内容	4つのユニットに分かれており、ユニットごとに入居している利用者像を的確にとらえ支援や事業所運営を組み立てています。利用者の年齢は20代から70代、かつ障害支援区分も2から5であり、そのため、ユニットにより支援度合いも異なりますが、利用者の支援にあたっては、それぞれの利用者の障害特性や希望する生活、獲得スキルに応じた支援を提供しています。そして各ユニットに共通している支援の姿勢が、それぞれの利用者にとっての望む生活、目指す未来像を常に職員は確認しながら、利用者に寄り添う伴走型の個別支援を行っています。
2	タイトル	利用者の意向を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えています
	内容	利用者の意見・要望、苦情に対して、組織的に速やかに対応する仕組みがあります。個別の要望に関しては、支援員を中心に個別面談などで日常的に対応されています。また、支援員は法人から貸与されたスマートフォンを活用し、速やかに利用者と連絡が取れる体制をとっています。生活面での相談などに応じています。支援員の連絡先は、各ユニットのリビングに掲示されています。また、虐待防止権利擁護委員会に利用者1名を委員として迎え入れ、要望や意見をくみ上げる場として機能するように取り組んでいます。
3	タイトル	職員の研修機会を多く設けています
	内容	常勤職員は外部研修に年1回以上（平均2～3回）、内部研修は年12回実施されています。外部研修は、障害者支援の内容だけでなく、様々な社会問題を含めた多岐にわたる内容を管理者が選び派遣しています。非常勤職員も、内部研修への参加、東京都等が主催する研修に順番で派遣しています。また、虐待に対して組織的な防止対策として、会議等で虐待防止に関するミニ研修が行われています。自己チェックシートを年に1回以上行い、結果については振り返り研修を実施しています。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	支援の方向性を一致させるためには、すべての職員が支援に関する知識や情報を共通に持ち理解する環境づくりが望まれます
	内容	職員採用の難しさもありダブルワークの世話人を採用しています。そのため、会議や研修参加が難しい状況にあります。また、世話人はパートタイム勤務であり、一か月の勤務日数も人によってばらつきがあります。その結果情報の共有や支援の質の担保に難しさがあります。すべての職員が支援に関する知識や情報を共通に持ち理解していくことが、支援の方向性を一致させるためには必要なことです。体制上きびしい現実ではありますが、職員は相互補助をしながら会議や研修に参加できる環境づくりが進められることが望まれます。
2	タイトル	利用者の余暇支援の拡充の期待にどのように応えていか、検討をすすめることが望まれます
	内容	利用者の休日の過ごし方や余暇等は、利用者の意向に基づいて支援しています。移動支援等を利用して映画やカラオケ、行楽地への外出、レストランでの食事等、活動の場を広げています。利用者は宿泊旅行などの余暇活動の拡充に期待していますが年1回の実施が担保できていない状況です。個々の嗜好に合わせた旅行を企画すると小集団になりがちで、利用者の望む企画が実施ができない現状です。既に宿泊旅行を行っている他のグループホームの実践例など参考に、余暇支援の拡充の検討が望まれます。
3	タイトル	リスクマネジメントの取り組みは適宜検証していくことが望まれます
	内容	利用者に関わるあらゆるリスクは、日常的な問題として捉えられており、支援員等は24時間態勢で対応しています。また、ミニ研修を行ったり、バックアップ施設や法人の会議等で問題提起をし対策検討が行われています。感染症や大規模災害に対する事業継続計画（BCP）を策定し、避難訓練も実施されています。しかし、BCPや避難確保計画等様々な計画が作成されていますが、これが実態にあっているか適宜検証していくことが必要となっています。入居者の安全と継続したグループホーム生活維持のため、現実に即した対応が望まれます。